



今回は、2年生の熊本大学訪問の紹介です。9月25日に熊本大学を訪れ、実際に大学の先生から講義を受けてきました。生徒の皆さんの感想をご紹介します。写真は、第五高等学校（現熊大）で教鞭を執った夏目漱石の像と漁長くん（長洲小出身）です。



今回、熊大を訪問し、説明があったのは教育学部のものだったけど、教育学部が求める人材にあった「意志や情熱がある」「真摯で意欲的」「学習意欲がある」といったことは、全ての学部や学科においても、とても大事なことではないかと思いました。でも、このようなことは、しようと思ってすぐできることではないと思います。中学校の今のうちから、これらのことを少しずつ実践していき、大学に入学してから困らないようにしたいです。

今はまだ将来の夢がはっきりしていないけれど、「真摯」や「学習意欲」の部分は今からでもできることなので、実践していきたいです。

（2年 荒木くん）

私は今まで、なんとなく熊大に対して堅苦しいイメージを持っていました。真面目で勉強ばかりしているように思っていました。でも実際は全然違いました。学生の皆さん一人一人が輝いていて、挨拶をしたら初めて会った私たちに笑顔で挨拶を返してくれたし、校内散策をしていた時に声を掛けてくださった方もいました。

図書館で勉強をされていた方々も、学食で食事をしていた方々も、みんな笑顔が絶えなくて、地元で熊本大学があるということを誇りに思いました。私たちはこれから頑張らないといけないことがたくさんあります。並大抵の努力では、あんな風に輝くことはできないと思います。一つ一つのことを丁寧に、自分の身に付くようにやって、人一倍努力できるようになりたいです。

（2年 比屋根さん）



2年生に講義（授業）をしていただいたのは、熊本大学大学院人文科学研究部の 大野正久（准教授、経済学博士）先生です。社会の教科書に出てくる需要曲線と供給曲線のお話の後、一つのゲームを行って、市場経済を模擬的に体験するという参加型の授業でした。

生徒の皆さんは、売り手と買い手に分かれて取引をして、その結果を集約し、市場均衡と比較することで、理論を確認することができました。「売り手、買い手には正反対の考えがあり、でもそれが価格決定につながっていくことの面白さを感じました。」と生徒の感想にもありました。ゲームの最中には、売買のやりとりの中で「それが市場経済なんだよ！」という声も聞こえてきて、授業を手伝っていた熊大の学生さんもちょっと笑っていました。

中学生が大学を訪れるという経験は、高校を飛び越していますが、多感で知的好奇心旺盛なときに、学問の一部分に触れるという大切な経験です。大学の先生や学生さんにも接することができて、将来の姿を少しでも投影できたと思います。

※今回、紹介した感想は学級通信に掲載されたものを転載しました。

2018. 10. 12 副校長 山部

